

セルビア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在セルビア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	3	5	159	1	9	264	0	0	0	4	14	423

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1976年に、ベオグラード大学言語学部東洋言語学科に日本語の授業が設置され、セルビアにおける日本語教育が開始された。

1985年には、言語学部内に日本語・文学・文化専攻課程が開設され日本語・日本文学を専門に学ぶことが可能となった。その後、日本語教育への関心は徐々に高まりつつある。

背景

セルビアでは、劇的な戦後復興を成し遂げた国、経済大国、先端技術を有する国、歴史と伝統を重んじる国として日本への評価・関心が非常に高い。また、旧ユーゴ紛争後、民主化が実現した2000年頃から本格的に始められた日本政府の経済協力が市民生活の改善に寄与したとして高く評価されており対日感情は非常に良好である。

る。また、日本の伝統文化や武道は高い人気を誇っている他、日本のアニメを放映する衛星チャンネルもあるなどポップカルチャーに対する人気も高い。これらの良好な対日感情、日本文化への高い関心から日本語の学習を始める者が多く見られる。

特徴

セルビアで実施されている外国語教育は、主に英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語などであり、学習者達は、留学・就職を意識した実利的な動機によって外国語学習に取り組んでいる場合が多い。日本語学習に関しては、上記【背景】にも記載のあるとおり、親日感情、日本文化への関心や、欧州言語とは全く異なる言語への挑戦など非実利的な動機によって始められるのが一般的である。しかしながら、近年は海外進出する日本企業への就職や日本での上級・研究活動などを動機とした学習者も増加している。

最新動向

- ベオグラード大学の日本学科生を初めとした日本語学習者のレベル（特に会話）は、年々向上している。インターネットの普及により、本人に意思があればいくらかでも日本語を聴くことができるようになったこと、日本人のチャットフレンドなどを探すことが容易になったことが理由として考えられる。
- 2019年7月、セルビアの教育関連法が改訂され、セルビアの4年制の高等学校で第3外国語として学べる正規科目として、日本語・日本文化が新たに選択科目化された（中国語・中国文化も同時に選択科目化された。なお、ベオグラード言語専門高等学校においては以前から正規科目としての設置が許可されており、また2013年にセルビア全土の高校において課外授業としての日本語教育導入は許可されていた。）。

教育段階別の状況

初等教育

2014年10月から三菱商事、ベオグラード大学、大使館の協力により、「日本語教育拡大施策」としてセルビア各地の高校・小学校合計約10校で日本語授業（課外授業）を実施し、日本語学習者数の増加に貢献してきたが、2019年3月に同施策を終了した。2025年12月現在、同施策に基づく日本語教育は行われていない。

中等教育

初等教育同様、「日本語教育拡大施策」によって一時は一部の高校で日本語授業（課外授業）が行われていたが、2019年3月で同施策を終了した。

ベオグラード言語専門高等学校に日本語コースが設置されている。同校での日本語教育は1992年より開始され2025年で30年目を迎えており、毎年12名の生徒が専門的に日本語を学習している。

2018年秋には、スレムスキ・カルロフツィ言語専門高等学校でも日本語コースが開講された。また、2013年から課外授業として日本語授業を行ってきたベオグラード第八高等学校では、2018年に（法の改正に先立って）日本語を正式な選択科目とした。

高等教育

ベオグラード大学言語学部東洋学科の日本語・文学・文化専攻課程は、1986年に正式に設置された。周辺国では最も長い日本研究の歴史を誇り、旧ユーゴ地域の日本研究の中心となっている。旧ユーゴ紛争時の国連制裁や

その後の経済的混乱などの度重なる困難を乗り越えながら規模を拡大している。しかしながら、セルビアでは日本語を活かせる職場などの選択肢が少なく、卒業生の多くは日本語とは関係のない仕事に就き、大学の研究者ポストもほぼ空きがないので、日本語能力を活かせる職場の拡充が急務である。

学校教育以外

- ノビ・サド日本友好協会及び在留日本人が協力し、ノビ・サド大学（ベオグラードの北 70 キロ）のクラブ活動として日本語教育を開始、2013 年には同クラブ活動の成果が評価され、同大学での日本語の選択科目化が 2014 年 10 月に実現した（現在休止中）。
- 希望者がいれば日本語のコースを実施可としている民間語学学校が複数ある（人数に応じ、グループまたは個人）。オンラインで個人授業を実施しているセルビア人も複数名いる。日本語学習希望者はこれらの情報をインターネットから収集している。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

セルビアの教育制度は、初等教育 8 年（第一段階 4 年、第二段階 4 年）、中等教育 4 年（ギムナジウムと各種専門高等学校の 2 種類に分類）、高等教育 3 年以上で構成されており、義務教育は初等教育期間の 8 年とされている。

教育行政

初等から高等教育機関まで全て、セルビア教育省が管轄している。

言語事情

多くの地域ではセルビア語が公用語として使用されているが、少数民族が住む地域では、ハンガリー語、スロバキア語、アルバニア語などが使用されている。また、ハンガリー語で学校教育を行う地域もある。

外国語教育

初等教育より選択科目として外国語授業が設置されている。小学 1 年生から第 1 外国語を、小学 5 年生から第 2 外国語を学ぶ。第 1 外国語と第 2 外国語は、英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、スペイン語、イタリア語の中から学校が選択するが、通常は英語が第 1 外国語である。中等教育機関でもほぼ同様だが、一部の学校は第 3 外国語を設置している。外国語教育のレベルは総じて高く、セルビアの都市部のギムナジウムの生徒は英語による講義をほぼ問題なく理解する。

外国語の中での日本語の人気

ベオグラード言語専門高等学校やベオグラード大学言語学部では、日本語コース入学希望者が募集定員を超えており、入学最難関の言語の 1 つとなっている。ベオグラード大学言語学部においては、中国語の人気が一番高

く、次いで日本語、北欧言語、オランダ語、スペイン語、トルコ語、英語の順で人気がある（2023年7月情報）。

大学入試での日本語の扱い

ベオグラード大学言語学部の入学試験では、日本語コース入学を希望する者のみ、日本語を試験科目として選択可能。

4.学習環境

教材

初等教育

国際交流基金（JF）国際図書展参加事業の一環で、ベオグラード国際図書展の日本ブースにて展示した図書から、日本語教育及び折紙教本等が寄贈されている。

中等教育

主教材として『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）を1年生から4年生まで全学年で使用している。

JFによる海外日本語教育機関支援事業により日本で出版された最新の教科書が入手できる体制にある。

高等教育

ベオグラード大学は、初級から中級向け教材として、主に『初級日本語 新装改訂版 上・下』東京外国語大学留学生日本語教育センター（凡人社）及び『中級日本語 新装改訂版 上・下』東京外国語大学留学生日本語教育センター（凡人社）が使われているほか、『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（三修社）、『短期集中 初級日本語文法 総まとめポイント20』友松悦子，和栗雅子（スリーエーネットワーク）『わかって使える日本語』名古屋YWCA教材作成グループ（スリーエーネットワーク）など日本で出版された教科書・教材を使用している。中等教育同様、JFの海外日本語教育機関支援などを受けている。

学校教育以外

セルビア語で出版されている教材として、『Korak po Korak（日本語いっぱい）』リリャナ・マルコビッチ、ディブナ・トリチュコビッチ（Kokoro、セルビア）がある。

IT・視聴覚機材

- ベオグラード大学では、日本語能力試験などのために学生との連絡にメーリングリストを活用している。またインターネットを利用した情報収集の方法を指導している。

5.教師

資格要件

初等教育

正規科目の場合、大学で教職を取った者が教える資格を有する。課外授業であれば資格要件は特になし。

中等教育

初等教育と同様。現在、JICA ボランティアは派遣されていない。

高等教育

該当分野で大学・大学院を卒業していることが要件であり、多くはベオグラード大学言語学部日本語・日本文学専攻課程を修了している。日本留学を経験した者も多い。なお、日本人が日本語を教える場合には要件が緩和されていることもある。

学校教育以外

日本語教師としての資格要件は特になし。ベオグラード大学言語学部日本語・日本文学専攻課程卒業業者や、日本への留学経験者が日本語教師として働いている。

日本語教師養成機関（プログラム）

ベオグラード大学言語学部日本語・文学・文化専攻の修士課程において、語学教師教養コース及び応用言語学コース（選択科目）がある。JF ブダペスト日本文化センターで毎年開催されている日本語教師向けの研修会に各回数名の教師が参加している。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

2024年3月現在、ベオグラード大学に1名。

教師研修

日本語教師対象の研修はない。JF の日本語教師研修プログラムに参加している。定期的に JF より派遣される日本語教育専門家の来訪の際に、セルビア日本学会が中心となりセルビアの日本語教師を集め研修会を開催していたこともある。

現職教師研修プログラム（一覧）

日本語教師対象の研修はない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2013年5月にベオグラード大学言語学部が中心となりセルビア日本学会が立ち上げられ、日本語教師間の連携が図られている。会員は40名程度。現在は活動休止中である。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

JF からの派遣は行われていない。

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

スレムスキ・カルロヴツィ高校 1名

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験はない。

毎年12月に、ベオグラード大学言語学部が現地実施機関となり、日本語能力試験が実施されている。

10.日本語教育略史

1976年	ベオグラード大学言語学部東洋言語学科にて日本語の授業開始
1985年	ベオグラード大学言語学部内に正式に日本語・日本文学専攻課程設置
1992年	ベオグラード言語専門高等学校にて日本語専修コース設置
2012年	ベオグラード大学言語学部に対して草の根文化無償資金協力にて最新LL 機材を提供
2013年	セルビア日本学会がベオグラード大学言語学部を中心として発足 セルビア教育省より一般中等教育機関での課外授業としての日本語の授業認可

2019 年

ベオグラード言語専門高等学校に対して草の根文化無償資金協力にて最新 LL 機材を提供

セルビアの4年制の高等学校で第3外国語として学べる正規科目として、日本語・日本文化が新たに選択科目化

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunikatsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)